

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第34号

平成30年度

「障害者週間」 市民のつどい



新井淑則さん

平成30年
12月8日(土)

会場

浦和コミュニティ
センター

浦和駅東口
市民ひろば



さいたま市立原山中学校吹奏楽部



清水市長

パートナーと歩んで二十二年

秩父郡皆野町立皆野中学校 教諭 新井 淑則

昨年十二月八日の「市民のつどい」の講演では、大変お世話になりました。私の拙い話を大勢の方に熱心に聴いていただき、感謝しています。大きなイベントで多くの方が携わっておられて、さいたま市民のエネルギーを肌で感じる事ができました。講演の際には、お話できなかった盲導犬について書きたいと思います。

私のパートナーは、雌のラブラドル・レトリバー、6歳のリルと言います。パートナーになって、4年目です。自宅から勤務先である皆野中学校まで、1,6キロを20分歩いていきます。校内の移動も常にリルと一緒にです。もちろん、授業中も教室の隅でステイしています。犬好きの生徒にとっては、リルを触りたくてしかたがないようです。でも、盲導犬はハーネスをつけている時は仕事中です。仕事中は名前を呼んだり、頭をなでたりしてはいけません。



家庭で産まれます。そこで名前をつけられます。その後、飼育ボランティアの家庭で1年間、愛情を持って育てられます。そして、アイメイト協会に引き上げられて、3〜6ヶ月の訓練が始まります。訓練が仕上がったところで、使用者が呼ばれて、1ヶ月の合宿訓練となります。アイメイト協会を卒業した日から、盲導犬として働きます。個体差もありますが、10〜12歳で引退します。引退後も、やはりボランティアの家庭で余生を過ごします。盲導犬の一生は、繁殖、飼育、協会を経て、使用者の家庭、そして引退後と渡り歩きます。一生を4つの家庭で、

しかも使用者以外はすべてボランティアです。献身的なボランティアの家族の思いに報いるには、盲導犬として充分に使命を果たすことだと思っています。飲食店や宿泊施設での盲導犬の受け入れもここ10年で広がってきて、入店を断られることが少なくなってきました。盲導犬を使い始めたころは、断られるのが当たり前という感じでしたので大きな変化です。

最近では小型犬をペットとして、飼う家庭が多くなったように思います。しかも我が子や孫のようにかわいがっています。私が盲導犬とパートナーシップを結んで学んだことは、犬は犬として扱って、決して人間扱いしてはならないということです。犬は主人のそばでナンバー2でいるのが幸せであること、よいことと悪いことをはっきり教えること、だめなことは体で教えるということです。リルを見て、必死で吠えている犬がいて、主人が「吠えちゃだめですよ。」を繰り返している光景に遭遇するにつくづくそう思います。



また、盲導犬使用者のホームから転落しての死亡事故も起こっています。白杖使用者だけではなく、盲導犬使用者にも声かけや誘導をお願いしたいと思います。

リルは私にとって、3代目の盲導犬です。盲導犬と歩くようになって、22年経ちました。秩父養護学校、盲学校、長瀨中学校、そして現在の皆野中学校と転動しましたが、22年間無事に通勤できたのは、3代の盲導犬のおかげです。22年間の中で、私の体の具合が悪くて、仕事を休んだことは何度もあります。盲導犬の具合が悪くて仕事を休んだことは一日もありません。これからは盲導犬と歩んでいこうと思います。

市民のつどいを終えて

特定非営利活動法人 さいたま市視覚障害者福祉協会 藤崎 明美

今年度も盛会に終えることができ行政や実行委員の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。

今回私は、基調講演の新井淑則さんとの連絡係をさせていただきました。

新井さんとは、埼玉県立総合リハビリテーションセンターと一緒に生活訓練を受けていた仲間です。もう20年以上も前になります。

新井さんが網膜剥離を発症してから約30年あまりの人生は「大変だったんですね」の一言では言いつくせない日々であったことが私の30年とも重なり、どんな日々だったかと講演を聞きながら改めて思い出していました。

失望して辛くて死んでしまいたくてなんて毎日のように思いながら子どもたちの寝顔にいやされたり泣いたりしていた日々が今は、なぜか他人事のように

感じてしまいます。

それだけ今がなんとか穏やかに過ごしているからだと思ひます。

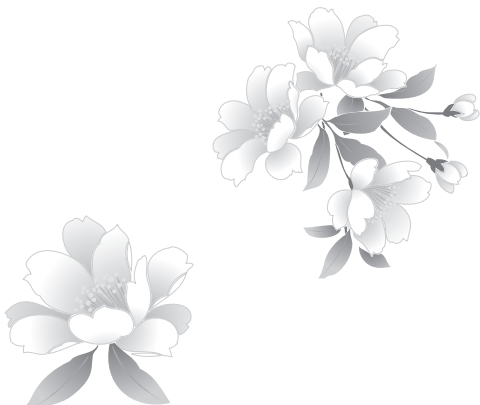
時の流れが何よりの薬なのかも知れません。

視協としては、4つのブースを設け市民の皆様をお待ちしてました。

視覚障害者が美しく生けたお花を鑑賞しながらプロの施術者によるマッサージでいやしていただき、日頃どこかで目にする点字にも触れていただき、視覚障害者とも戦える将棋盤で最近話題になっている藤井聡太さんにも勝てるかもと楽しんでいただいたりとにぎやかなブースになりました。

通路での呼び込みにも力が入りお祭り気分で楽しい一時でした。

他のイベントに参加できなかったことが心残りです。



演奏会を聞いて

さいたま市立原山中学校吹奏楽部の1・2年生部員39名による演奏会が開催され、日ごろの活動成果を披露してくれました。

オープニングは、行進曲『よろこびへ歩きだせ』。威厳のあるマーチであり、演奏も軽快で力強く感じました。喜歌劇『ロシアの皇太子』セレクシオンは、皇太子の身分違いの恋を描いた悲哀の物語です。カスターネットと打楽器が効果的で、明るく楽しい曲に仕上がっていました。サックス3重奏『ガラスの香り』はキレがあり、部員3人の息の合った演奏が素晴らしかったです。

昭和歌謡メドレーは、『東京ブギウギ』『高校三年生』『愛燦燦』の3曲。どの曲も30年以上前の歌ですが、今でも懐かしさを感じるメロディーであり、古さ



を感じさせない。思わず口ずさんでしまいました。いつ聞いても飽きず、聴く人にも心地よく響き、穏やかな気持ちにさせてくれる選曲でした。

平成最後の音色が会場に響き渡り、吹奏楽部員の「技術の高さ・表現の豊かさ」を感じました。これからも目標に向かって精進して、観客を楽しませてください。

(鈴木)



作文・表彰



スタンプラリー



全国障害者スポーツ大会・表彰



男組をみて感じたこと

青山 淑子

今年度の市民のつどいで、「男組」のろう男性5人を招いてのイベントがありました。

私としては、手話表現のすべてを日本語へ読み取り通訳してくれるものと思いましたが、実際は、ナレーションのみ読み取り通訳があるだけでした。ろう者5人は身振りやパントマイム的な表現をしていました。手話がわかる人は内容を理解し、笑ったりして、楽しめたと思いません。しかし、手話のわからない人は楽しめたのかな？途中で退席した方もおり、気になりました。

後で聞いた話では、手話は分からないが、内容は理解して、楽しかったとの声も多数あることが分かり、少しホッとしました。

えようと演技をしていました。その気持ちが手話の分からない観客にも伝わったことは、やはりプロだなと感じました。

私たちは今、手話は言語であることをを一生懸命に周りの皆さんに訴えています。手話から日本語への通訳がなくても私たちが思いを身振りなどで伝えれば、手話分からない皆さんにも伝わるものだと思っています。

このような市民のつどいを機会に、一般市民の皆さんにも手話やろう者への理解が深まれば良いなあと熱望しています。



広場 & 展示



「市民のつどい」を開催

黒澤 篤子

12月8日(土)浦和コミセンにて「市民のつどい」を開催しました。

清水市長のご来場を頂き、好天にも恵まれて賑やかに実施出来ました。

会場にも多くの親子連れの方々の姿を拝見出来賑わいを感じました。午後からホールの記念講演は盲目の教諭として活躍されている新井先生にお越し頂きました。一般の方々に交じって演奏で参加頂いた原山中学校の生徒さん全員が聞き入っていました。

参加頂いた障害者団体と関係団体の方の多彩な企画で会場を盛り上げて頂きました。1階市民広場には当事者の参加が増えました。思いつきりダンスする参加者や元気に歌う姿に多くの拍手が送られました。一般の方が立ち寄って楽しそうに見てい

る姿は、暖かい光景に映りました。

今後も企画運営を検討して市民の皆さんに記念講演や「市民のつどい」の各団体の企画に参加頂ける様に実行委員の方々と考えて行きたいと思えました。

休日の開催にも関わらず多くの参加ご協力を頂け誠にありがとうございました。



市民のびどりの一日を振り返って

実行委員長 中野 勇

今年度は、実行委員十七名、行政三名、事務局一名で六回の実行委員会を開き、イベントの開催並びに基調講演者の決定に至り、十二月八日の浦和コミュニティセンター、浦和駅東口駅前広場での開催にこぎつけました。

当日の実行委員は九時に集合し、障害福祉政策課長にご挨拶頂きました。その後、中野が挨拶をし、皆さんが席に着き、十時からの記念式典に望みました。

清水さいたま市長のご挨拶で始まり、障害者週間の心の輪を広げる小学生、中学生、高校生、一般の部の作文並びにポスター表彰があり、小学生、中学生、高校生、一般の部の朗読があり、兄弟に障害を持つ方等々に心の感動を与えました。

第十八回障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」におけるさいたま市選手団大会結果発表がありました。

又、原山中学校四十一名の吹奏楽の演奏が四十分ありました。ここで午前の部終了。

午後の部

基調講演「心はいつもバリアフリー」講師 新井淑則氏 健常者であった先生が途中で視力を失い、病気との闘いに心を打たれ、また、奥様の心強い激励により現職に復帰されたとの講演でありました。

男組 演題「男組のオムニバス」手話劇の講演があり、手話言語を指しているさいたま市聴覚障害者協会の主張が、皆さんに理解してもらえたらと思います。

- 東口駅前広場のイベント
- ファッションショー・ダンス (NPO法人織の音アート・福祉協会の音工房)
- ダンス (社会福祉法人ハッピーネット・大宮ゆめの園デイサービスセンター)
- バンド演奏 (ヨン・レノ)



- 楽器演奏・歌 (社会福祉法人いーはとーぶ)
- よさこい (岩槻舞雛)
- ゴスペル (TEAM絆)

天候に恵まれ外のイベントも大盛況で有意義でした。

十階で五団体が各イベントを開催し、市民の方々が無料のマッサージ、アロママッサージを受けていました。

精神障害、知的障害、身体障害に対する理解を参加者全員に深めて頂けたと思います。午後三時四十分無事閉会。関係者の皆さま、大変ありがとうございました。参加者千三百五十一名。

アンケートより

- みんな楽しそうにしている、書道や絵画などがとても素晴らしくて感動しました。ありがとうございました。
- パラリンピック等で義足の選手を多く目にするようになり、近隣のスーパーで義足の男性を見かけても、何も感じない(偏見を持たない)自分に気づき、他の障害者に会っても、同じように(偏見を持たない)ようになりたいと思います。

- 多くの老若男女が1歩外に出られる環境、ひとの心のバリアフリーを望み、私もその一助になりたいです。
- 大勢参加していて、楽しかったです。 ほか5件

- 新井先生のご講演を聴講いたしました。配慮がたりないように感じました。情報保障席の位置など、わかりづらいつつ、このイベントのことを当日知った。もっとPR(テレビ等)したほうがよいと思います。
- 男組の皆さん最高でした。自分も手話を頑張ろうと思います。 ほか1件

- 市民のつどいに来るたびに、障害者に対する理解が深まる気がする。
- 毎年参加させていたいただいていますが、関係者の努力の大変さがわかり、心に響きます。市民のつどいがあります。発展することを期待しています。普段体験できないふれあいがありました。
- 楽しかった。また来たいと思います。 ほか2件

平成30年度バス研修会に参加して

米山恵美子

平成30年10月25日の晴れた日
おおぞら号で参加者24人を乗せて、さいたま新都心を午前8時半に東京都町田市ある「キューピーあい」を目指し出発しました。この会社は、あのキューピーの特例子会社で、従業員118人のうち66人の知的・肢体・聴覚・精神の障害者が健常者とともに働く会社です。チラシ、ポスター、POP、DM、サンプル、などの封入と発送などが主な仕事で、他に農作業・社員のリラクゼーションとしてマッサージの職に携わる視覚障害者、他事務職員が働いています。静かな環境で障害の特性を生かしてそれぞれの仕事に従事していました。服装もYシャツにネクタイでした。

隣の敷地に建つサントリーのビール工場見学をし、ビールの試飲でご機嫌よく無事にさいたま新都心に帰ってきました。今回も施設見学のみならず、なかなか行くことがないビール工場とバラエティーにとんだ企画に感謝いたします。

その後、府中市矢崎町の大東京総合卸売センターでおいしいマグロ丼をみんなでお楽しみ



ふれあいスポーツ大会 2018でのこと

竹内 政治

去年の九月二十三日にふれあいスポーツ大会2018が開催されました。秋分の日でした。場所は例年通り岩槻文化公園です。

快晴とまではいきませんが、雨が、雨の心配もなく参加者みんなでスポーツ大会を楽しみました。特にパン食い競争と大玉転がしは人気で順番待ちが大変でした。スタンプラリーや体験企画も大勢の参加者で賑わっていました。

私は三年連続、大会実行委員長を務めています。荷が重い分やり終えたあとの充実感は格別です。参加者すべての人がスポーツを通して仲間となり楽しく過ごす。この貴重な運動会をこれから先もずっとつづけていきたいと思えます。ボランティアの協力もありがたいです。もっとボランティアが増えるといいです。

編集後記

毎月二十六日は、犠牲になった方々を思い祈りを捧げる日にしています。相模原市の津久井やまゆり園で起きた事件から二年半が過ぎました。犯行のむごさとともに、犯人が発した言葉の数々に、今も胸が締め付けられています。目に見えない差別解消の道のりは、遙か遠いものなのかもしれません。

しかしながら、いつも背中を押してくれるのは、当事者の一途な姿と笑顔です。今年度の市民のつどいの会場で、歌い踊り躍動する障害の重い方々は、キラキラに輝き、感動を与えてくれました。毅然とした態度こそメッセージなのだと感じます。臆する事なく粘り強く、差別は間違っていると発信し続ける事に尽きると、教えてもらえるのです。(泉)

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-11

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八六五三・七二七一

FAX 〇四八六五三・七三四一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 中野 勇